

出席委員 櫻井治男（会長） 小川斌夫（副会長） 垣崎まゆみ 竜田和代 田村昭十郎
西浜隆 西山裕司 春木千富 前田世利子 松村富美雄 山崎智
欠席委員 石田美和 太田浩司 奥田良平 奥野長衛 中村基記 松月広子 山本はるみ

（敬称略）

1 総合計画基本構想に関する諮問に対する答申について

（以下、会長の進行、委員の意見、事務局の説明）

まずは、事務局より資料の説明をお願いしたい。

事務局より地域審議会のミーティングのまとめについて説明

1回目では総合計画の作り方に関する説明とその意見をいただいた。2回目では、駅前を題材に新市の一体感について意見交換をした。

事務局よりまちづくり市民会議について説明

まちづくり市民会議で「みんなのまちの計画」というまちのビジョンを作っている。分野別に6つの分科会をつくり、市民の皆さんが中心となって各分野の議論をしていただいている。その議論をまとめたものを「ニュースレター」として（現時点で完成している分だけ）資料につけさせていただいているので、ご覧いただきたい。この地域審議会でも諮問させていただいているのが、総合計画の「基本構想」であり、まちづくり市民会議の分野別の分科会で話していただいていることは、総合計画の「基本計画」となってくる。

総合計画基本構想に関する諮問は二つ目の諮問である。諮問について再度内容を説明して欲しい。

事務局から再度諮問内容の説明

先程の資料の説明とかぶるが、今、市では新しいまちのビジョンである「みんなのまちの計画」をつくっている。そのために、まちづくり市民会議をつくり、検討を重ねている。このまちづくり市民会議では、新しい総合計画の「基本計画」をつくることになる。今回、地域審議会に諮問するのは、その上の「基本構想」についてである。基本構想については、新市建設計画を尊重してつくっていくこととなるので、総合計画の基本構想は、新市建設計画の基本構想部分をそのまま踏襲させていただきたいと考えている。新市建設計画の3ページから6ページの部分について、「新市」や「4市町村」といった字句を「伊勢市」や「旧4市町村」と修正したものを基本構想としたい。

この地域審議会の設置根拠である合併調整事項の「地域審議会の設置に関する協議」において、総合計画の基本構想に関することが地域審議会への諮問事項となっているので諮問するものである。

基本は合併前に作られた新市建設計画を尊重することになる。

基本方針は、大きく三つからなる。基本理念、将来像、地域別振興の方針からなる。

基本理念については、

市民が中心になってまちづくりを考えていくこと、それを行政と協働でやっていく 風を起こす
原点に立ち返りながら、新たなまちに変わりつづける 循環型のまちづくりの発想
伊勢の豊かな財産を次の世代へ引き継いでいく

この三つが基本理念。

伊勢市の将来像について、「美し風起つ回帰新生都市」は、先程の理念を受けた将来像。

地域別振興の方針について、四つの地域特性を示している。特色を活かした内容。

海、賑わい、活力、緑をキーワードにしている。

原案については、了解でよろしいですか？

一同了承

答申の文案作成、とりまとめについては会長、副会長へ一任でよいのか？

一同了承

2 「新市の一体感の醸成について」

非常に難しいテーマであるが、自由に意見交換をしたい。

他の地区のやり方の一つとして、合併調整の内容を精査し、問題を洗い出すこともしているが、伊勢地区はもっと自由にいろいろな意見を交換していきたい。ミーティングの中で、伊勢市駅前の開発の話をしている中で、これは伊勢地区だけの問題でなく、新しい伊勢市のシンボルとして必要だという意見が出た。共通のイベントや、共通の施設を切り口に意見交換していきたい。

(委員意見)

お木曳が始まる。かつては宮川右岸の神領民だけだった。合併により小俣地区、北浜地区の奉曳団が参加することになった。宮川右岸においても、宮本地区、沼木地区が参加する。見事に一体感が醸成されつつある。お白石持ちに向けて、もっと参加してもらえるようにしていきたい。また、大まつりなど、お祭りが一緒にするなどし、それを通じて一体感を醸成できるのではないか？市民がいろいろな意見交換しながらやっていくのに、良い材料になるのではないか。

小俣はおばたま祭り、御園はラブリバーまつり、二見もさまざまなイベントを住民主体で開催している

これらのものが結びつくことはないのか？

それぞれの地域の特色は残していかなければならない。一方で、お祭などをバラバラにしてい

けない。なんとか統一してやれないか、一体感がもてないかということは、大きな行政的な課題である。総合支所や、観光の部署が連携して考えているが、まだ具体的な動きはない。逆に、まとめてしまうことで、地域性がなくなってしまうことは、地域の人にとって寂しいこと。そこを上手くやっていかなければならない。

昔は伊勢市の体育祭をしていた。今は伊勢市スポーツレクリエーション大会が開かれている。そのような類のものが、他の地区にはないように思う。体育祭なら、大きくまとめることができるのではないか。去年の大会では、旧伊勢市以外の人で参加している人が少なかったのではないか。もう少し働きかけて。

旧伊勢市の中でも、参加が少ないのでは？もっと参加すればよいのだが。

陸上競技場で開催していた頃は賑やかだった。参加する団体がなくなってきている。新市になったので、まとめてやればいい。行政ははたらきかけているのだろうか？

サンアリーナでイベントをしたとき、宗教的な側面があるとの理由で教育委員会から注文がついた。伊勢市は全国的にも神宮のまちとしてこれだけ有名なのに、行政として（宗教の関係が）そんなに問題なのか？

お木曳は民俗行事として考えている。また、お木曳で観光客が来るので観光資源としてとらえている。（お木曳を）宗教行事として位置付けてしまうと、行政としては手が出せなくなる。

2~3年前も同じことを言われたが、伊勢市は活用すべき。もっと大々的にやるべき。

お木曳は20年に一度だが、西条が盛り上がっているのは、だんじりを毎年やっているから。毎年何かをやると盛り上がる。毎年やる行事につなげて行って欲しい。木遣りの保存会では、毎年小学一年生が入ってくる。いつでもどこへでも行ける状態である。お木曳を毎年やるということではないが、おまつりもあるが、毎年、伊勢市がもりあがるように市役所が取組んで行って欲しい。

伊勢市特有のイベントや、その他イベント、スポーツ、様々なものが考えられますが、芸能祭はについてはいかがか？

小俣の文化協会や御園の文化協会は補助があるが、旧伊勢の文化協会にはない。合併したが、文化協会のあり方が違う。

文化面だけでなく、スポーツなどの面でも補助の方法が異なる。

伊勢市の芸能に関しては、市は全く無関係。弁当代も出ない。

手厚くするのが良いのか、足りない部分を助けるのが良いのか難しい問題である。自主性を大切にし

ていかなければならない。行政がすべてをいつまでもお世話できる時代ではない。

一緒にやれそうな分野として、芸能、スポーツ、祭やイベントがテーマとしてありそうだ。いままでだと、市が助成金などを出したり主催してきたが、市民側がグループを作って（何かイベントや祭りを）やりますといった風になる仕組みがあれば良いかもしれない。市民がこんなことをやりたいといったときに、行政がそれを後押しできるかどうか重要。こんなことをやってみたいというのがありますか？

伊勢市の行事で人を呼べそうなものはお木曳はもちろんのこと、花火などがある。これらを拾い上げて、特色のあるものにならないか。（市は）宗教的な捉え方でなく、伝統的なものとして捉え、猿田彦のPRなどをしてほしい。市民が盛り上げ、行政が支援していく。神宮も誘客のための手をうってほしい。駐車場も広げてほしい。伊勢市としての、客を集めるようなものを、大きなスケールで作って欲しい。多少の資本が要るが、労働力の面は市民でできると考える。いくら市民で盛り上げようとしてもお金がない。そこに対する投資をしなければならない。企業誘致に関しても、20年30年先を見通して投資をしていかなければならない。そうすれば市民も納得する。

お木曳を宗教行事として考えてしまうことが、行政に問題がある。そのへんが、前に行かない問題。

行政として、各地域をどうしていくか、市の枠組みをどうするかという姿がどこにもない。フラットな状態である。新しい伊勢市として、小俣地区などの各地域をどう見るかという見方が必要。

例えば、伊勢のまつりは小俣の人は知っているが、小俣のまつりを伊勢の人が知っているだろうか？全部の地域の情報を周知して知りえる状態にならないと一本化は難しい。

全体をコントロールする行政が必要である。行政が全体の枠組みをつくる必要がある。

子どもが楽しい思い出を作っていないと、まちは続いていかない。いろいろなイベントをしているが子どもに伝えるイベントが大切。市民が続けていけることを市としてしなければならない。

伊勢市には仕事がない。奉曳団には年輩の方が多い。それに対して青年部の人が少ない。伊勢に若者が居つくようにしなければならない。若い人が住みやすいまちにしていかなければならない。

旧伊勢市の時代から行われているイベントを合併後もしているが、旧伊勢市は上手くまとまるが、合併した旧町村とは上手くいかない・・・。もう少し行政が力をいれて、ある程度協力するように言ってほしい。

お金がキーポイントになる。サービスが削られて、どんどんさびれていく。お金がかかるイベントがどんどんさびれていく。市の文化的な面が衰退する。

少子高齢化で年寄りが増えて、若い人が減っている。

伊勢は神宮を中心とした観光都市だが、もっと受け入れ態勢をしっかりとしないといけない。渋滞がひどい、10台に1台がユーターンするように見える。もっと大きな駐車場を整備して欲しい。観光客を逃がす行政ではいけない。観光客をつかんでほさない行政にしなければいけない。

観光客が伊勢市駅で降りて歩くとトイレがない。特に女性が困る。このような観光都市は珍しい。そのようなことは、行政が力を入れなければならない。

基盤整備に関しては、行政の役割は大きい。交通システムを抜本的に見直すことを市長もマニフェストに示している。少しでも渋滞がないように行政が頑張っていかなければならない。

そのような問題は10年前からある。合併したから、緊急な課題である。

行政が全部やらないが、行政が補助をするなど、民間の力をもらいながら、上手に協力していきたい。

一体感としては、地域色のあるキーワードで、まちをまとめることだと思う。みんなを引き止めるものは、神宮さんしかないと思っている。この地域は神宮さんの考えそのものに尽きる。すべてが神宮さんのテーマを持ってまちづくりをする。自然を大切に、食を大切にしながらやっていく。全てに神宮さんの考え方に戻って考える。20年というスパンで、まちを考えていく。(全国的に)スモール東京をつくりたがっているように思う。はっきりとしたキーワードを元に一体感をつくっていかなければならない。やはり神宮さんだと思う。

皆さんがおっしゃることに納得している。伊勢=神宮さんというところがある。観光客は途絶えず来るのではないと思う。伊勢を発展させるためには、ここに生活をさせる場所をつくってあげること。どこかのベットタウンになるようなまちではない。生活できるような事業が必要。企業誘致が一番手っ取り早い。

小俣は小俣、御園は御園で祭りをするだろう。それぞれに生活基盤があり、文化があるから。そこに伊勢の人も参加する橋渡しをすることが行政には必要。総合型スポーツがいろいろな地域にある。各地区にあるが各地区だけでやっている。それらが集まることがない。橋渡しをするのが市役所。そういうつながりをもっていかないと一体感が生まれない。

お金は行政の力が必要。精神的なことは、市民でできる。「みんなが親切」「きれいな花がさいている」「空き缶などが無い」などをしていくには、リーダーが必要。あれもこれもでなく、何かに焦点を当てて花を植えよう、言葉をかけようとか、あいさつしようとか、そういうことを徹底して、観光客に伊勢はいいなと思ってもらえるようにしなければならない。

駅前のことについては、近鉄、JRがどう考えているのかという問題もある。伊勢市と一緒にやっていく気があるのか問題。そういったところへ働き掛けをしていかなければならない。お木曳の行事は文化

的な行事。伊勢市の文化として位置付ける必要がある。

市民の中で一体感を感じているのは、中学生。いろいろな競技などや学習などで意外と区域を越えて一体化している。友達になったり、自然にそうなっていることを感じている。

一体化する中で、情報を市民が知っていることがすごい力になる。情報が誰向きかということを考えたい。市の持っている情報を360度、受信発信を共有し、連携することが大切。4地域の情報も共有できることが大切。

既におおまつりは、新伊勢市のお祭りになっている。それぞれの地域のまつりは、ちょっと違う。それぞれの特色がある。おおまつりは、伊勢の人が主催者であり、みんなが参加する。それぞれの特色を大切にすれば良いと思う。それぞれの特色をみんなが体験し、13万人の新伊勢市の文化としていけば良いと思う。

観光の連携については、集客・観光は外向きの話だが、そこに防災、ごみ問題、環境問題へつながっていく。

連携と分担をしていくことで市民力が上がっていくのではないかと考えている。市民市民というが、市民というのは、たまたま行政職員だったり、企業人だったりする。市民の中には全てが入っている。あまり区別する必要がない。そういう認識をみんながしっかりもたなければいけない。それが相手を理解したり、一体感へとつながっていくのだと思う。

人間性は地理・地勢から創られる。伊勢は、伊勢の地形、気候が人間性を創る。この地は長くお迎えをする地域だった。いろいろな意味で、自由にされていた地域。それぞれがばらばらにしてきた。

都市計画で、伊勢はどこでも自由に何でもできる。きちんと整理されていない。行政として、都市計画をもう一度見直して欲しい。ここにはこうあるべきだというものをはっきりしてほしい。野放し状態になっている。もう一度、都市計画をきちんとしてほしい。基本にもう一度立ち返ってほしい。

ランドマークがほしい。外宮前が寂れたのは、鳥居を外してから。平均的な都市にするために、伊勢のシンボルをなくした。もう一度反省して、都市計画をし、開発に対してもっと指導すること。そうすることによって、人の心が一つになってくる。伊勢の指導は最低である。全く根拠がない。

車が多い。交通量が多い。伊勢西インターで渋滞ができる、しかし、歩いていくことが良い。お金をかけなくても、ちょっとしたアイデアで人は歩くようになる。インフラのあり方を再度考えた方が良い。

伊勢市駅前がゴーストタウンである。これではイメージが悪くなる。それによって、心がすさんだ人が増える。そういったところも考えていかなければならない。外宮前までもっと緑を増やしていったほうがよい。神宮までもっと木が繋がっていれば人はもっと歩く。今の状況は地面を固めすぎ。土が大切。

今の駅前の道路は何回もやり変えている。あれは都会的なセンス。あんなことはしなくて良い。お金をかけすぎ。

伊勢は伊勢のイメージ。そのイメージや街なみが大切だと思う。

なんらかの形で統一性、秩序性などをつくっていくのに、市民の中から動きがでてくるしくみをいかに創っていくか、次に考えていきたい。今後はミーティングを通じて話していきたい。ミーティングは参加状況が寂しいので、会議内容を工夫していきたい。行政にこんなことを説明して欲しいとか、こんな人呼んで話をききたいとかがあれば、連絡してほしい。

以上